

Gordon Research Conference に参加して

理学研究科生命理学専攻 D1 中島耕大

出張先：Holderness School, 33 Chapel Lane Holderness, NH, US

出張期間：7/27～8/3

出張目的：本学会に参加し、動植物の生殖に関する最先端の知見を得るため。また、ポスター発表を行い、自身の研究に関して議論を行うため。

概要：

本学会は、受精および発生に関する学会です。配偶子形成、受精、初期発生過程に関する最新の知見について議論され、生殖の仕組みの理解が深められます。さらに、近年、メディアでも取り上げられている「試験管ベビー」の生殖技術に関する発表も含まれています。また、本学会には、生殖研究分野を先導してきた研究者から大学院生が参加し、活発な議論が終日（9時から21時半）行われます。

所感：

私は2年前にも本学会に参加しており、当時と比較すると、研究はもちろんのこと、英語力をつけ、人脈も広がったという印象でした。本学会は、ヒト・動物・植物の受精に関する学会ではありますが、ほとんどがヒト・動物の研究者で、植物の研究者は私自身を含めて、二人だけでした。植物の受精研究の進捗をあまり聞くことができなかったのは、残念でしたが、私は研究の領域を植物だけでなく、動物にも広げていることから、動物の受精の研究の見聞は、今後の自身の研究に応用していけるのではないかと思います。ポスター発表に関しては、20人ほどの方に来ていただきました。現在の動物の受精メカニズムに異を唱えるような仮説だったため、多くの研究者の方に、理解しがたいと言われましたが、中には面白い発想で今後の実験に期待するといったコメントもいただくことができました。

前回、本学会に指導教員不在の中参加し、粘り強くディスカッションをしたことが功を奏し、イスラエルのグループと共同研究するに至りました。今回もこの機会を十分に活かし、今後の研究につなげていくことが出来たらと思います。

